

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ジェンテンドー京丹波店

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	環境配慮設計の概要記入欄		環境配慮設計の概要記入欄		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境						2.4
1 音環境		1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 室内騒音レベル	内部の音が集住住宅に出来るだけ聞こえないように換気扇を配置	3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	-	1.0	1.00	-	-	
2 外壁遮音性能	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽衝撃源)	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重衝撃源)	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		1.8	0.35	-	-	1.8
2.1 室温制御		2.6	0.50	-	-	
1 室温	空調機を個別で制御出来るようにしている	3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能	-	1.0	0.17	-	-	
3 ソーン別制御性	-	3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-	
1 昼光率	-	-	-	-	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	-	3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御	-	-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.50	-	-	
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-	3.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の材料を90%以上使用している。	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	-	-	
1 換気量	-	1.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能	113.7765/2610.30=0.043	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	1.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	売場天井高さ4.5m	5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	-	2.0	0.33	-	-	
3 内装計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内装材は防汚性の高い材料を使用し、軒下部分には防鳥網を設	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に対応	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	鉄骨造(防錆塗装)	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	角波ガルバリウム鋼板	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	Pタイル、塩ビシート、ビニールクロス	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	衛生:硬質塩化ビニル管/空調:被覆冷媒銅管、硬質塩化ビニル管	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	部品がある限り使用可能な機器を設置	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	換気設備は個別運転ができるようにし、また耐震性の高い施工。	5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	売場の天井高さは4.5mである。	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	外周214+耐力壁0/面積3791.38	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		2.8	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.7
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	[BPI][BPIm]=0.79	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm]=0.66	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.3
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	小便器はセンサー付を使用している。大便器は便音器使用。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	アスファルト舗装下再生クラッシュラン	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	壁、天井、(3392.66/5283.15=64.2%)	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング材、錆止め(SDSで確認)	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	スプリンクラー設備設置	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	グラスウール、ロックウール使用	-	-	-	-	
	3 冷媒	空調機冷媒ガス:R32,R410A	3.0	1.00	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		4.2	0.33	-	-	4.2
2	地域環境への配慮		2.4	0.33	-	-	2.4
	2.1 大気汚染防止		-	-	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.67	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.33	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	浄化槽設置	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐車場、駐輪場完備、大店立地法協議済	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	1.00	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	都市計画地域内非線引き区域	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 給排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		窓システムSC		窓の日射取得率(η)	
Q1 室内環境	2.1.3 外皮性能	U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁
		住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
		壁	0.0%	ηAH	
3.1.1 昼光率		自然換気有効開口面積率	4.3%		
4.2.2 自然換気性能					
Q2 サービス性能	1.1.1 広さ・収納性	執務スペース	0.0m ² /人	病床	0.0m ² /床
	1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量	0.0 VA/m ²	シングル	0.0m ² ツイン
	1.2.1 広さ感・景観	天井高	4.5 m		0.0m ²
	1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	1.0%
	2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数	25 年		
	2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔	20 年		
	2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔	10 年		
	2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔	15 年		
	3.1.1 階高のゆとり	階高	5.85 m		
	3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率	5.6%		
	3.2 荷重のゆとり	床荷重	2800 N/m ²		
Q3 室外環境(敷地内)	1 生物資源の保全と創出	外情緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
	3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率	53%	水平投影面積率	0%
LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m	0.79	断熱等性能等級	等級2 相当
	2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%
				採光を満たす住戸数	0.0%
				通風を満たす教室数	0.0%
				通風を満たす住戸数	0.0%
3 設備システムの高効率化		BPI/BPI _m	非住宅 0.66	住宅	-
LR2 資源・マテリアル	1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率	0.0%	太陽光	9.8kW
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目	再生クラッシュラン エコマーク商品	太陽熱等	0.0kW
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率	0.0%	蓄電池	0.0kW
	3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP)			
	3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP)	0		
	3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP)			
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比	92%	隣棟間隔指標Rw	0.40
		地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	0.0%
				外壁面対策面積率	0.0%
		見付面積Sb	939m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	77.43 m
				基準高さHb	7.5 m
		緑地	m ²	水面	m ²
				保水性対策面	m ²
				高反射対策面	m ²
				再帰性反射対策面	m ²